

関西大学児童図書館・高槻市立中央図書館 ミューズ子ども分室

高槻ミュージズキャンパスに 市民向け児童図書館が開館

高槻ミュージズキャンパス西館1階に、関西大学児童図書館・高槻市立中央図書館 ミューズ子ども分室が開館された。7月14日、同図書館のオープニングセレモニーが行われ、上原洋允理事長と奥本務高槻市長があいさつし、テープカット。大学と自治体が連携することによって、大学キャンパスのあり方に新しいページが加えられた。

関西大学児童図書館・高槻市立中央図書館 ミューズ子ども分室は、本学と高槻市の連携事業の一つとして開館した市民向けの児童図書館だ。関西大学が施設および書架などの備品や図書資料を高槻市に無償で貸与し、高槻市が市民への貸出等運営業務を担当する。

児童書・絵本を中心に約16,000冊を所蔵。広さ196.02㎡の明るく開放的な館内には、インターネットの利用スペースやコルク敷きの閲覧スペースを設けている。車椅子での入館が可能で、目の不自由な方も楽しめる音の出る絵本もそろえている。また、催しもの、子ども向けのおはなし会、おたのしみ会など、楽しい行事も行っている。

貸出、返却、検索、予約など、高槻市民は他の高槻市立図書館と同様に利用できる。開館時間は平日の午前10時から午後5時まで(但し、大学の休業期間中は除く)。



子どもたちに読み聞かせをする奥本務高槻市長(左)と上原洋允理事長

● かんだい 明日香 まほろば講座

明日香村との地域連携事業を首都圏で展開



800人以上が参加した「かんだい 明日香 まほろば講座」

関西大学と奈良県明日香村との共催(朝日新聞社後援)による第7回「かんだい 明日香 まほろば講座」が6月20日、東京・有楽町の朝日ホールで開かれた。

関西大学と明日香村は、高松塚古墳の発掘以降、緊密な関係を築いてきた。2006年度に「地域連携に関する協定書」を交わし、本学の教育・研究の成果と日本の「まほろば」明日香村の持つ長い歴史と豊かな文化資源を活用した連携事業を展開している。

2008年度からは首都圏での地域連携事業として、飛鳥文化を通して日本の歴史・文化、そこに暮らす人々との交流について共に考える「かんだい 明日香 まほろば講座」を開催している。

今回のテーマは「国際交流都市 あすか」。当日は800人以上が参加し、「飛鳥の亀形石槽施設—斉明天皇の政治と饗宴—」と題する奈良大学名誉教授・水野正好氏の講演と、朝日新聞記者である天野幸弘氏のコーディネートによるパネルディスカッションに聴き入った。パネルディスカッションでは、水野名誉教授のほか、滋賀県立大学の田中俊明教授、国立歴史民俗博物館の林部均准教授、本学文学部の高橋誠一教授をパネリストに、各専門分野からの活発な討論が行われた。

次回の第8回講座は9月25日、第9回講座は2011年1月22日に、関西大学東京センターで実施の予定。参加費は無料だが、事前申し込みが必要である。講座全般についてのお問い合わせは関西大学地域連携センター(TEL.06-6368-1245)、お申し込みについては奈良県明日香村役場 政策調整課(TEL.0744-54-2001、URL: <http://www.asukamura.jp/>)まで。

吹田市制施行70周年記念事業大学主催事業

4大学・1研究機関合同講演会で 楠見学長が講演

関西大学千里山キャンパスのある吹田市は、2010年4月1日に市制施行70周年を迎えた。これを記念し、市内にある4大学(関西大学、大阪大学、大阪学院大学、千里金蘭大学)、1研究機関(国立民族学博物館)が、吹田市制施行70周年記念事業「大学主催事業」を実施した。



千里山キャンパスで開催された岡本全勝氏による講演会



(写真右・下) 「地下水から見える関西文化の源流」というテーマで講演を行った楠見晴重学長

本学では地域連携センターが6月26日、千里山キャンパスにて「関西大学講演会」を開催した。講演では、総務省消防庁消防大学校長(当時)の岡本全勝氏が、「地域社会とリスク」をテーマに、地域社会におけるリスクの近年の変化と現状、今後の課題について述べた。

また、4大学・1研究機関合同企画として「吹田の知 集結&発信」合同講演が、7月11日にメイシアター大ホール(吹田市泉町)で開かれた。本学からの講演者は楠見晴重学長(環境都市工学部教授)。楠見学長は「地下水から見える関西文化の源流」というテーマで、水と都市・文化について、主に京都を例に挙げて説明した。京文化の雅と伝統の背景に、豊富な地下水がかかわっていたことを、関西大学で行った研究の成果を踏まえて紹介した。

講演前には、約100人の関西大学応援団が200人を超える聴衆の前で記念演舞を行い、本事業に花を添えた。

